

飲酒時に感じる価値

今年は全国的に梅の開花が例年より早かったそうです。梅の開花というニュースを耳にすると、すべてこれまで来ている春を想わずにはいられません。

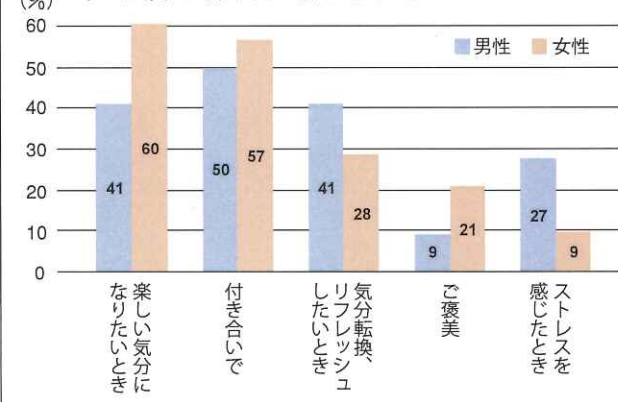
春と言えば新入社員。そこかしこで彼らの歓迎会が催されるシーズンも間近です。「Z世代」と言われる彼らを迎え入れるにあたって、新入社員歓迎会の幹事をする方もいらっしゃるかもしれません。今月はそうした方々にとっても少しでも有益な情報になればと思い、若者のお酒のある風景にまつわる調査結果※をピックアップしたいと思います。若者ではない私だけでは心細いので、産学連携プロジェクトで一緒にいる関西学院大学人間福祉学部森藤ゼミに所属する森優月さんの卒業研究における分析結果を、森さんご自身の読み解きとともに取り上げたいと思います。

インテージが読み解く

お酒を飲む人にとって「お酒を飲みたい」と思うときはどんなときですか?」と聞いたところ、全体(男女計)では「楽しい気分になりたいとき」「付き合いで」「気分転換・リフレッシュ」が上位に並びました。男女別で見ると男性の半数が「付き合いで」を挙げてトップに。次いで「楽しい気分になりたいとき」「気分転換」が並びました。「付き合いで」は他との差も大きく、その場の空気も手伝ってか受動

お酒のある新しい風景

◆「お酒を飲みたい」と思うとき



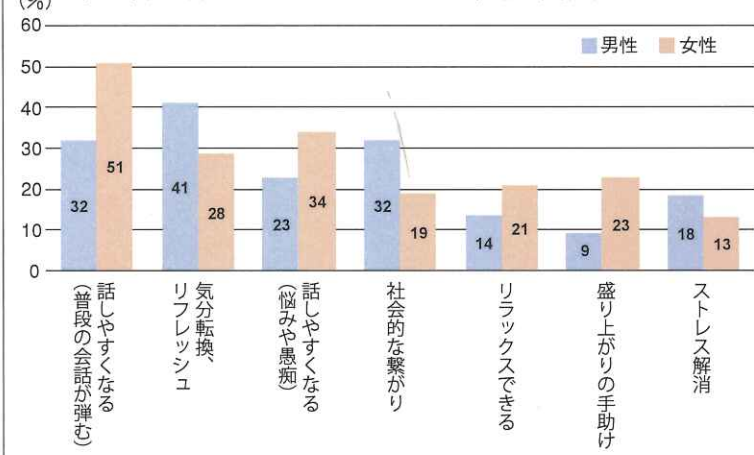
的にお酒を飲みたい、と思うことも多いようです。また「気分転換」や「ストレスを感じたとき」が女性よりも高くなっていることから、男性は何らかのストレスを感じた際、気分転換としてお酒を飲みたいくなるようです。一方女性には「付き合いで」も男性同様に高いものの、「楽しい気分になりたいとき」がトップでした。また「ご褒美」にも目をひきます。

本音の対話できる発散の場

女性には男性よりもポジティブに楽しい気分になりたい、あるいはなんらかの褒美としてお酒を楽しみたいと考えているようです。女性が美味しいものを求めてお店選びにこだわる理由がこんなところにも透けて見えるようです。

「お酒を飲んでいるときに感じる価値(気分)」

◆お酒を飲んでいるときに感じる価値(気分)



すくなる」「リラックスした気分になれるので普段より本音が飛び出すことも多いのでは」と解説しています。さらにその結果「ストレス解消やリフレッシュにつながるのでは」と彼らにとってのお酒の価値を考察してくれました。そして最後に「飲酒を単なる低関与な気分転換の場としてではなく、デジタル化で希薄化しがちな本音による対話と他者による受容という精神的・社会的な充足を求める高関与な能動的行動として、お酒のある場を捉え直しているのでは」という読み解きも加えてくれました。

本音による対話を「発散」、他者による受容を「傾聴」と置き換えてみると、彼らを囲むお酒のある風景における私たちの立ち居振舞いのヒントとなりそうです。今度の新人歓迎会、幹事さんは「ゆっくりと彼らの言葉に耳を傾ける」そう

に良い風景としての記憶を残すことができるのではないのでしょうか。

※研究者自主調査(2025年実施) 105サンプル

●インテージは国内最大のマーケティングリサーチ会社。豊富なデータをもとに各種の販売動向などをまとめている。●今回の執筆者は、(株)インテージ生活者研究センター長の田中宏昌(たなか・ひろまさ)さん。写真。



毎月1日号に掲載します